

乙訓平和委員会ニュース

発行年月日 2024年4月5日 No.475 発行・乙訓平和委員会 編集責任者・米重節男
電話・FAX 075-932-3546 MAIL heiwaotokuni@gmail.com

桂駐屯地の一般公開は小さい子連れ親子がいっぱい 武器・装備品の展示と災害救助活動紹介も

3月31日陸上自衛隊桂駐屯地でさくら並木の一般公開がありました。桂駐屯地内には、多数の桜が植えてあり、構内にさくら並木道路があります。毎年、桜が咲く頃に合わせて一般公開をしています。

自衛隊のいまを知ろうと、乙訓平和委員会 で案内したところ、4人が参加しました。

一般公開は、高校生の音楽演奏、広報ブース、売店、桂駐屯地のマスコットイラスト作家のサイン会、資料館の公開、大砲の展示、自衛隊車両の公開展示、スタンプラリー、グラウンド内でのテントもOKと盛りだくさんでした。

資料館には、この場所が1947年に旧海軍が買収した土地で、戦争中は三菱重工の軍用機用エンジン工場でした。戦後、自衛隊発足に伴い1954年11月に武器・施設補給部として駐屯地が発足した歴史が紹介されています。

会場には小さい子を連れた親子が多く来ていました。制服試着や車両乗車体験には順番待ちの行列で、子どもの記念撮影をする人もあちこちに見受けられました。

正門の横に退役した戦車と自走砲が常設展示されています。ウクライナやパレスチナでの戦争が続いているだけに、戦車や大砲の展示は関心を引いていました。

会場内には、自衛隊の宣伝物が数種類置いてありました。自衛隊の状況を知ることができます。

住民に受け入れられる自衛隊への広報活動

桂駐屯地には、いまでも国内で見つかる戦争中の不発弾を処理する部隊があります。その活動の紹介、処理後に関係自治体から出された感謝状、処理した不発弾なども展

示してあります。また、能登半島地震での救援活動の紹介もありました。自然災害での自衛隊出動の頻度が高く、国民が自衛隊を肯定的にとらえる場となっています。それもあってか、展示では水を供給するタンク車、炊き出し設備の装置、洗濯機を備えた車、現地での修理・工作ができる車両なども展示されています。自衛隊の装備品で一番出番の多い物でしょう。大砲や戦車などは、戦後の日本では幸いにも出番がなかった物です。

自衛隊の隊員募集のためのコーナーもありましたが、自衛隊の「地域交流」がごく普通になっていると感じさせる展示もありました。「職業」としての自衛隊紹介、小学校・中学生の見学、高校生の職業体験、夏休みの小学生を集めたイベントなどが組まれています。お礼の手紙や報告の新聞なども紹介されて、隊員集めにつなげているのが伺えます。



自衛隊「仕事」図鑑 写真入りで紹介
(文と写真:米重節男)(2ページにつづく)

ここにも税金が使われている！

新婦人・石田

参加した女性3人共、見る物、聞く物全てが兎に角「恐ろしい」「怖い」の連発でした。

若い夫婦が幼児連れで、ある家族はじいじ・ばあば連れで、イベントを楽しんでいる姿に鳥肌が立つ様な気分でした。幼児、子ども向けの自衛隊員の制服を着せて、護衛艦？の写真の前で記念写真を撮っていました。自衛隊のトラックには、子ども達が楽しそうに乗っていました。過去には来場者を乗せて会場内を回るのもあったとのこと。又 男女の自衛隊員の顔をくり抜いた、子ども・大人の写真撮影用の立て看板もあります。

最初見た外の掲示板で、隊員募集の年齢18歳～33歳迄のポスターは、可愛いイラストの隊員が呼びかけている図で、それはある意味で恐怖感を覚えます。

会場内のブラスバンドの演奏は2つの高校が出演。学校は違いましたが、以前何度も「九条の会向日市連絡会」が11・3で出演依頼したものの、断られた事を思い出しました。公立の桂高校が参加していたのには驚きでした。音楽に合わせて幼児が踊っていたのにも再度驚きでした！！

災害救助用の水1トン車、食事カー、洗濯力



能登半島地震の救援活動紹介の展示

炊き出し用の車両



一を展示していました。一時に30人分の食事や洗濯が可能と説明されていました。ここに置かずに珠洲市に行つて欲しいと思いました。



西京区川岡小学校の学校だよりを紹介展示 桂駐屯地を見学した様子が報告されている

市民に自衛隊が役立つ組織で必要だと思わせる、展示や舞台イベントが多く、このように人を集め、楽しませ、自衛隊へのハードルを下げる取り組みがされています。それに負けない事をせねばと思いましたが、税金が使えないわれわれでは、イベントに工夫があると考えさせられたことです。憲法を守らせる取り組みが益々求められていると再度痛感した日でした。

(写真:米重節男)